

都の取組状況

○ 東京都は「東京文化戦略2030」のもと、誰もが身近に芸術文化に触れられる環境づくりを進めており、令和6年11月の都民アンケートでは【芸術文化の鑑賞には関心があるが「育児や介護を行っているので行くことが難しいから」鑑賞しなかった】と回答した割合が、14.8%（令和3年）→10.2%（令和6年）と改善が見られています。

○ さらに、より多くの子供たちへ文化体験を届けるため、令和7年6月にはこども芸術文化プラットフォーム『TOKYOカルチャーデビュー』を立ち上げ、企業や団体の協力も得ながら社会全体で子供たちの感性の芽生えを後押しする新たな取組をスタートしました。

参考リンク：① [東京文化戦略2030](#) ② [TOKYOカルチャーデビューHP](#)

現状の課題

都立文化施設では託児サービスを提供し、子育て世帯が芸術文化に触れられる環境整備を進めています。しかし、保護者からは「自分だけ趣味を楽しむのは後ろめたい」、子供からは「慣れない環境で不安」といった声も寄せられ、託児が利用者にとって必ずしも前向きな体験となっていない側面があります。

こうした状況を踏まえ、託児を単なる“お預かり”にとどめず、保護者も子供も安心して芸術文化に触れられる入口として機能させていくことは、子育て世帯の鑑賞・体験機会を広げるうえで重要な課題です。

期待するサービスの例

※現時点でのイメージで、今後変更可能性があります。

- 対象年齢や発達段階に焦点を当てた体験型託児プログラム／文化施設やイベント会場における出張託児や移動型託児サービス

	例1	例2
場面	東京都現代美術館で実施する展覧会等	都有施設以外のホール・劇場などでの公演
場所	東京都現代美術館の研修室（70～80㎡） または講堂（400㎡）等	都立文化施設以外のホール・劇場が提供 している貸会議室等
回数	年15回程度（※イベント等によって は期間中連日になることも想定）	年2～3回程度

- 託児を利用した保護者とその子供が共通の話題で語り合える体験設計
- 保護者が前向きに託児を利用したくなる仕掛けや広報展開
- 取組効果の検証（本プログラムが子供にとって文化芸術に親しむ契機となっているか、保護者の利用意識に変化があるかなど）
- 保育士やシッター向けの研修や託児所運営に関するナレッジ共有サービス

多様な環境・プログラムで事例を積み上げ

託児利用への心的障壁の引き下げ効果や託児を通じた芸術文化との接点づくり等を検証し、TOKYOカルチャーデビューを介して様々な企業・団体へ取組の輪を広げていく